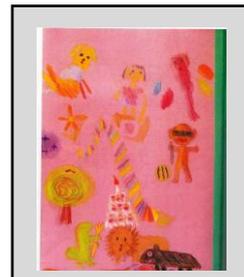


国語教育専修 国語科教育研究室の紹介 教員：村上 呂里

教員についての基本情報

教員名	村上 呂里
担当教科と分野	国語科教育学
研究分野	国語科教育学
担当授業	国語概説・初等国語科教育法・国語科実践研究・国語科教材研究 ことばの教育特講・演習など
授業についての一言	子どもの内側から豊かなことばの学びを生み、創り出す力量を培ってほしいと願っています。
研究室ホームページ	



研究の内容

- (1) 生活に根ざし、内言領域を耕すことばの教育論
- (2) 理論と実践の往還による文学の授業論
- (3) 児童文学研究（あまんきみこの作品論を中心に）・児童文学教材論
- (4) 沖縄のことばの教育の歴史

これまでに研究室で取り組まれた卒業研究の内容

* 卒論のテーマをそのままあげます。

- 「対話的な学び」を育む国語科授業の研究
- 入門期における国語指導について-子どもの内から生まれることばを大切に
- 論理的・創造的思考力を育む教科横断的な学びの探求-説明的文章教材における思考力の系統に基づいて
- 国語科における「言語活動の充実」のための教師の手立ての研究
- 賢治童話から展開する子どもの世界観を育む読書指導
- 文学教育における「鬼」-鬼とともに生きる子どもたち
- 風土に根差した俳句指導論の探究-宮古諸島における俳句指導の歴史を踏まえて
- 沖縄戦を描いた戦争児童文学の研究
- 「きくこと」の指導論

研究のキーワード

内に根のある言葉 内言領域 沖縄の伝統的な言語文化 あまん童話 リテラシー実践
学びとケアをつなぐ

研究室の様子

「子ども」と「ことば」が大好きな学生たちと、共に学び合い、理論と実践を往還させながら探究することを大切にしています。真摯に研究Ⅱ向き合っしてほしいと願っていますが、ほっこりする場面もあります。実践の省察を通して子どもの豊かな学びの姿を共有できたときの、学生たちの何ともいえない笑顔に力をもらっています。数年前の卒業式の日、4月から小学校の教壇に立つ卒業生がくれた手紙の一部を紹介します。

「自分はこれまで特に国語に思い入れのあるわけではなく、体育や部活などの方が好きな生徒だったのですが、大学で先生方から国語教育を学ぶなかで、国語や言葉に対する考えが180°変わりました。言葉と向き合うことは自分と向き合うことで、学校で友だちや叙述と対話を通して言葉と向き合うことがどれだけ素敵なことなのか、国語の魅力や意義について知ることができました。教員になってからも、どの教科も大切ですが、国語や言葉にこだわった教師でありたいと思います。(中略) 自分も子どもの声を楽しみ、子どもを丸ごと見とることのできる先生を目指して頑張ります。」